



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
購読料 1カ月5343円+税  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2019



9月12日  
(木曜日)

# 発進 DNGA

## ダイハツのクルマづくり

ダイハツ工業は、良い商品に貢献した技術の一つが新開や技術を手頃な価格で市場投入する「良品廉価」なモノづくりを強みとしてきた。特に軽自動車は移動にクルマが不可欠な地域では「生活のライフレイン」でもある(松林淳取締役)。DNGAで新たな技術を導入しても、「販売価格をできる限り抑える」(同)ことにこだわった。

### 下 良品廉価にこだわって

DNGA第一弾の新型「タレント」に搭載した新型パワートレインは、定地燃費で時速60km/h走行時で旧型比約12%、時速100km/h時で同約19%それぞれ向上した。これ

だが、新技術を取り入れたにも関わらず「エンジンのコストは以前より安くなった」(担当者)という。良品廉価の考え方に基づいて、新開発エンジンも「高級な電子部品を使わずに、もともとある技術をうまく活用する」(同)ことを目指して開発したため

だ。点火コイルも、これまでダイハツ専用部品を採用していたが、新エンジンではサプライヤーの汎用品を採用したためコストを下げられた。こ



DNGAでも良品廉価を推進して、価格上昇を抑えた。ダイハツは良品廉価なクルマづくりに向けて、部品

## 高級部品使わなくても

のほかに「今あるものを使う」(同)ことを追求

し、専用部品を減らした。また、ベルト駆動に加え

「この仕様と調達の最適化を図る「部品軸活動」を進めて

## もとからある技術有効活用

クライトは、タンクトで白色を採用した。さまざまな色を試

きた。これは、同じ商品力の部品でも構造・設計を工夫したり、オーバースペックな仕様を適正化したり、調達量を増やすといったことでコストを下げようというものだ。部品軸活動は2011年から展開しているが、今回はプラットフォームやパワートレインなど「これまで変えられなかった部品についても見直せた」(田代正俊タレント・チーフエンジニア)。

DNGAで今後のダイハツ車の方向性を決めていったことも貢献した。例えばステアリングにあるスイッチのバツ達や生産要件も織り込んでいく。今後のダイハツが商品力と価格競争力を両立したクルマをスピーディーに投入していくための原動力になる。(林 里奈)

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2019年9月12日 日刊自動車新聞 2面  
©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。